

○題材 『上手な断り方』を考えよう」

【学級活動（2） ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の育成】

○ねらい

断ることは良好な人間関係を築く上で大切なことを理解するとともに、適切な断り方を身につける。【知識及び技能】

【人権教育を通して育てたい資質・能力】

- ・相手の気持ちや意見を大切にしながら、自分の思いを伝えることができる。【技能】
- ・身のまわりに起きる問題に出合ったときに、よりよい方法で解決しようとする。【態度】

【指導の展開及び指導上の留意点】

◆丸数字は「とっとりの授業改革【10の視点】

	学習活動	◎主な発問等・生徒の反応	指導上の留意点と評価方法（※）
導入	1 誰かに頼みごとをされたときの返事について考える。	◎頼みごとをされたときの自分も相手も大切にした対応について考えよう。 ◎もうすぐ次の授業が始まる時「ちょっとついてきて」と言われたらどうしますか。(①) ・ダメと言う ・「分かった」と言ってついていく ・嫌だけど・「いい」と言う	○これまでの経験の中で想起していきよう促す。
展開 1	2 断り方の例を見て、「上手な断り方」について考える。	◎相手の気持ちを大切に「上手な断り方」についての学習です。OKだけでなく、断ることは悪いことではありません。 ◎資料1をもとに演技（ロールプレイ）をしたいと思います。 ◎それぞれの断り方はどんな印象ですか。 ・相手を見ていない ・相手の都合は無視している ・何を言っているのかわからない ・はっきりして欲しい ◎どんな断り方だと「上手な断り方」になるでしょう。(④) ア 相手に視線を向けていること イ 感謝の言葉があること ウ 謝る言葉があること エ 断る理由を言っていること オ 代わりの意見をだしていること	○本時のねらいを確認する。また、断り方は「上手な」であり、「正しい」ではないこと、一つの見方に過ぎないことに留意する。 ○資料1を参照にして、生徒と教員で役割演技をする。 ○教員が攻撃的に断るパターンとあいまいにしたままのパターンとを扱う。 ○それぞれどんな気持ちになったか相手役生徒だけでなく、周りで見ている生徒にも尋ねる。(⑤) ○視覚的にポイントをまとめることで「上手な断り方」の学びにつなげる。(④) ○左記イについては誘われた時などの状況によることも確認する。
展開 2	3 断り方を考える。	◎上記ア～オの5つのポイントをヒントにセリフをワークシートに書こう。(個人の思考)	○資料2の「場面カード」で指定を受けた4つの場面について個人で考えるよう時間を設ける。

		<p>班ごとに4つの場面を指定します。 (例) 班の半分は【場面1】～【場面4】について 残りの班は【場面5】～【場面8】について</p> <p>◎班の中でそれぞれが考えた「上手な断り方」を発表しましょう。(班での活動) (⑤)</p> <p>◎場面にあった「おすすめの断り方」を見つけよう。(班での活動) (⑥)</p> <p>◎それぞれの場面の「おすすめの断り方」をクラス全体で共有しよう。(全体での活動) (⑤)</p>	<p>○班の数などに応じて場面数を調整する。</p> <p>○個人で考えた「上手な断り方」をお互いに説明してそれぞれの考えを聞き合う時間にする。</p> <p>○聞く人は自分の意見と比べながら、ポイントとつなげてアドバイスや意見を伝えるよう促す。(⑦)</p> <p>※相手の気持ちや意見を大切にしながら、自分の思いを伝えている。【技能】(観察)</p> <p>○班で一つずつ場面設定を選び、おすすめの理由を添えて紹介できるように促す。</p> <p>○発表の際に【場面1】～【場面8】までそれぞれを紹介する。班から上がってこない場合は、どんな回答があったかを聞き、断りずらさや想像しずらさを共有する。</p> <p>○割り当てられていない断り方についても参考にできるように促す。</p>
展開 3	4 実際に断る演習をする。	<p>◎実際にそれぞれが良いと思う断り方の練習をペアでやってみよう。(ペア活動) (⑥)</p> <p>◎(例)となりの人と【場面1】をお互いにやってみよう。</p>	<p>○断られた相手も断った自分も嫌な気持ちにならないものであったか確認したり、改善したりできるように促す。</p> <p>○時間の設定をした上で、前後の人で【場面3】、列をずらして【場面5】、移動して【場面7】をする等、いろいろな場面を扱ったり、ペアを変えたりしながらする。</p> <p>※身のまわりで問題に出合ったときに、よりよい方法で解決しようとする。【態度】(観察)</p>
	5 振り返りをする	<p>◎自分も相手も大切にした「上手な断り方」ができたか振り返りを書こう。(⑧)</p>	<p>○展開1の5つのポイントを確認したうえで振り返るように促す。</p> <p>○あくまでも「上手な」であり、「正しい」ではないこと、一つの見方に過ぎないことを確認する。</p> <p>※断ることは良好な人間関係を築く上で大切なことを理解するとともに、適切な断り方を身につけている。【知識及び技能】(ワークシート)</p>

## 「上手な断り方」を考えよう

( )組( )番・名前( )

「上手な断り方」を考えよう。

断る理由	代わりの意見
1	
2	
3	
4	
▼友だちからのアドバイス	

「場面カード」上手に断れたかな？

↓◎よくできた ○だいたいできた △もう少し

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
ア 相手をよく見る						
イ 相手に感謝を伝える						
ウ 相手に謝罪を伝える						
エ 理由や事情を説明する						
オ 代わりの意見をいう						

自分も相手も大切にしたい「上手な断り方」ができたか振り返りを書こう

今日の授業について下のいずれかに○印をしよう。

よくわかった ・ だいたいわかった ・ あまりわからなかった ・ わからなかった

資料 1

▼役割のセリフ例

生徒「この机重くて、一緒に運んでもらえる？」

- ①「無理だわ」(忙しそうに)
- ②「は？何で？」(問い詰めるように)
- ③「ムリだね～」(そっけなく)
- ④「え～いま～え～。え～」
- ⑤「この机？ああ重いんだ。ああ。なるほどね。重いんだ。そうか。重いんだ・・・」

資料 2

▼「場面カード」(例)

【場面1】Aさんと帰る約束をしていたのに、Bさんに「いっしょに帰ろう」と言われた。
【場面2】掃除をしているときに、友だちから遊びに誘われた。
【場面3】「一緒にCさんを見捨てて・・・」とお願いされた。
【場面4】友だちと楽しく遊んでいたが、どうしても帰らなくてはならない用事があった。
【場面5】深夜に友だちとLINEをしていたら、止まらない。明日は部活が朝からあるからもうやめたい。
【場面6】課題提出のとき、友だちが「見せて」と言ってきた。
【場面7】「班長に立候補したら、友だちが「絶対、〇〇と同じ班にしないで」とお願いしてきた。
【場面8】次の時間の準備をしないと間に合わないのに、友だちが「職員室についてきて」とお願いしてきた。

参考文献

「社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方」

小泉令三/山田洋平 著

ミネルヴァ書房

「すぐ始められるピア・サポート」

森川澄男/監修 菱田準子/著

ほんの森出版